

五 明治六年～七年

〔表紙〕

家譜 慶永公

從明治六年一月
到同七年十二月

二百十卷追加 五

明治六癸酉年

十一月一日益御機嫌能被遊御超歳、年頭御式昨年之通ニ而稍御差略御加へ相成候、御屋形向一日斗上下着用候事、正二位様午前七時御供揃ニ而、真崎御別館より御参朝被遊候、正四位様二者十二時御出門ニ而、真崎御邸江御祝詞為被仰上被為入候、御家從之面々当御邸江御祝詞申上之儀ハ、三ケ日之内勝手次第罷出候様兼而御沙汰被為在候、但シ当御邸執務之御家從ハ、非番之面々ノミ稻荷堀御邸ニ於テ、正四位様・御前様・信次郎様御同座、御礼被為請候也

於御上屋敷年始御礼申上之次第

伊藤 輔 井上 徹

右於御座之間御礼申上、結ひ長蛇御直ニ被下之

中根 新 白井久人 蟹江太平

沢木禄平 堀 庸 山沢 簡

香西皆雄 井上三男吉 竹内常矩

山本 武 佐野 久

右於同席二行ニ出御礼申上、長熨斗御直ニ被下之

高橋太一

右御次ニ而御目見被仰付候

一 右畢而御前様・信次郎様江於御座之間一連ニ罷出御礼申上候事

一 正二位様江年始御礼申上之儀ハ、真崎御邸江追々ニ罷出候事

一 足羽県出仕之面々追々に御祝詞出頭致候

一格別御懇意之面々御祝詞罷出候節者、於御前御酒肴被下置候蒲鉾密柑類之

十一月二日正二位様八時御出門赤坂離宮江御参上、御帰路御宗家徳川様江御年礼御勤被遊候

天璋院様

本寿院様 青目籠入鴨・野菜

実相院様

從三位様 白紙壺本

右御持参ニ而被進之

十一月三日元始祭ニ付御両公様御参拜被遊筈之处、御所劳ヲ以御断、御届相成候

十一月七日御前様・信次郎様、真崎御邸江御祝詞トシテ被為入候

一二月廿八日左之通区務所江御届相成候

足羽県貫属士族
正二位松平慶永借受人

家従

白井久人 三十八才

同人

母 美代 六十三才

妻 花 二十九才

長男光太郎 十一才

傭人

東京地方十三区老番組瀧田村六軒町
式拾七番地立花勝五郎娘

かめ

同同

佐野 久 三拾七才

母 いね 五十八才

妻 とよ 卅貳才

正二位松平慶永

家丁

中野良助 三十才

渡辺友作 三十才

今川新助 三十一才

中村多助 四十二才

今村藤四郎 二十七才

中島雄二 三十二才

正二位松平慶永

家婢

熊本県士族上田輔妹

室田 三十九才

静岡県士族粕屋美貴娘

ふち 十九才

足羽県士族小林太仲妹

らく 二十六才

熊本県士族中村実娘

たき

第一大区拾壹小区神田小柳町
壱丁目式十番地茶屋与兵衛娘

むつ 二十才

家婢傭人

安房国安房郡安裾村農平兵衛娘

右同断農石井半次郎娘

せん 二十才

第一大区小五区本沼町壱丁目大倉兼吉娘

くま

第一大区小八区京橋南紺屋町田中清吉娘

たつ 十九才

ノ

十一月廿九日神武天皇御即位御宴会ニ付御参賀、神殿御拝酒饌御頂

戴被遊候

一二月十二日

御人少之処精勤ニ付月給
拾七円ニ被成下候事

山沢 簡

一二月十五日今度有明楼より出火ニ候処、真崎御邸御別条無之

一三月三日

本石町二丁目藤田半兵衛娘

させ 西十五才

右正二位様御次子供二被召抱、御充行御次廻り並之通被下候事

一三月廿日於天德寺元尾州様貞慎院様御法事御執事二付、九時御出門二而御参詣、左之通被供之

一御香奠金貳百疋

(マ)

一四月廿四日本日越前大安寺ニ於テ大安院様貳百回御忌御法事被為在候二付、天德寺江為御像拝御代参沢木禄平被仰付、左之通被供之

御両君様
御香奠金貳百疋

一四月廿一日左之通御廻章

廿一日麝香之間詰之内中山従一位・九条従一位・御名・嵯峨従二位・池田従二位・池田従三位江従宮内省廻章到来、皇后宮御哥会被為在候二付、廿二日第一時参集候様ニとの事

一四月廿二日前記皇后宮御哥会二付、召之面々第一時参集、宮内省

江伺天機且出頭届致候事

歌会次第

各着席

皇后宮御出席

次探題

皇后宮

歌人 女官

省 題者

点著

此間暫入御、哥人暫時退席

次詠進

次御覽

次入御

次退席

何茂哥人江於候所御菓子一卷ツ、賜り候事

詠進御探題

慶永

中々ニみやび也けり春風になかはちりにし山さくらかな

以上

明治六年四月

メ

一四月廿三日

(御用有之福井表江立帰候処
今日帰着)

香西 成

一四月廿七日左之通御届相成候

慶応三年丁卯年
同戊辰年

在京

隱居 正二位松平慶永

右御届申候也

明治六年四月廿七日

一五月四日浄光院御祥月二付御両公天徳寺江御参詣被遊候

御香奠 金百疋ツ、

但浄光院様ニ限り年々御祥月二者御香奠被供候事

一同日夜第一時頃皇城炎上ニ付、御上屋敷〆香西成直ニ罷出申上候
処、即刻御供揃ニ而御参朝被遊候、左之通御書下ケ留置候様被仰
出

五月五日午前第一時皇城炎上ニ付、人力車ニ而参朝、衣体洋服、
坂下御門より吹上滝見御茶屋江参り、宮内少丞迄名刺差出シ伺
天機、赤坂離宮御立退之旨承り候ニ付、直ニ同所へ参上伺天機、
夫〆天前江罷出伺御機嫌直ニ退出候事

一五月五日中山従一位殿・九条従一位殿〆之御廻章

今晚禁庭炎上絶言語奉恐入候、乍併主上・后宫益御機嫌能赤坂
離宮江移御恐悦奉存候、右ニ付麝香間一同〆不取敢伺天機、皇
后宮へも同様御肴献之儀兩人申合取斗仕候間、為御心得早々御
案内申入候也

五月五日

道孝

忠能

麝香間

御同列中様

但シ御進献御割合御一軒向三拾七銭、後日御廻達有之御出金相
成候

一五月九日皇城炎上ニ付、御両君様〆不取敢金貨貳千兩御献上被遊
候ニ付、御書面相副堀庸持参候処、吉永典事落手相成候^(侍)

但シ前以御献金相成度旨御願濟ニ而御差出之思召之処、猶東京
府知事大久保一翁殿へ伊藤罷出及内談候処、御同人直ニ差出候
而宜条御差図ニ付、如此御取斗ニ相成候事

皇城炎上何共不堪驚愕奉恐入候、就而者甚微少之至却而如何
共奉存候得共、金貳千兩不取敢献上候、乍恐御手許御書籍等
万分ニも被為充被下置候ハ、本懐之至難有仕合ニ奉存候、
尚臣等之微衷可然御取綴被下宜御執奏所冀候也

明治六年五月九日

松平茂昭

松平慶永

東京府知事大久保一翁殿

一同日松栄院様十七回御忌御相当ニ付、今九日より十日朝迄於天徳
寺御法事御執行被遊候ニ付、前以不断院江申越置、且左之御方々
江為御知差出候事

御宗家様 天璋院様江

田安様 阿部様 清心院様江

一橋様 順誠院様江

細川様 松平確堂様

前田從三位様

一正二位様より御附御法事御座御執行被為在候

一右同断ニ付正二位様・御簾中様七字御出門ニ而御参詣、御経中

御詰被遊候、正四位様・御前様御同様御詰被遊候

一右同断ニ付以前御住居相勤候御比丘尼其外御奉公相勤候、御懇

命之者共天徳寺江参詣致候ニ付、御賄之義不断院申談、天徳寺

ニ而引受取斗候ニ付、左之人数高仕出シ候事

中賄七拾五人前 外二菓子

下賄貳拾五人前

一右同断ニ付御香奠左之通被供之

御両君様〇 金貳百疋ツ、

御簾中様 〇 金百疋ツ、

御前様

一右同断ニ付左之通被供之

正二位様〇御附御法事料金五百疋

御簾中様〇右同断ニ付御香奠貳百疋

右同断ニ付左之御方々様〇御香奠御備ニ相成候

金貳百疋 松平確堂様

金貳百疋 清心院様

右同断ニ付御手備

正二位様 御花壺筒

正四位様 御菓子一台

右同断ニ付左之面々御寺詰として罷越候事

御家令扶三人 書記老入 会計老入

候

米五俵

別段 正二位様思召を以

米五俵

金參百疋

不断院

右御法事ニ付賄始彼是取扱之廉ヲ以被下之

一右同断ニ付正二位様御詠哥御祭文

維

明治六年太陽曆五月十日孫正二位松平慶永誠惶誠恐頓首百拝焚
香謹告大母松栄君靈尊歳序流易値十七年忌辰追憶往事蒼天罔極
捧歌章以陳情志奠菓以慰靈魂

松栄君の十七年の忌によめりて

なき君の深き恵を思ひてななくあまりの袖のむら雨

十あまりのなくとせをへしいにしへをしのふ涙に袖ハひちけり
いにしへをとありかかりと忍ふれはいますかことき君か面影

一五月十一日

一交御肴壹折

右久我正三位様御代替り二付、為御歛御両公様被進之

一五月十七日戸籍取調処江左之通御明細書御差出ニ相成候

一 竪曲尺九寸 横二寸五分

宿所賜邸蛎壳町一丁目二番地

養祖父 從四位松平越前守齊承亡

祖父 從三位德川大藏卿治察亡

養父 正四位松平越前守齊善亡

父 從一位德川右衛門督齊匡亡

第一大区十四小区華族

正四位松平茂昭養父隱居

生国武蔵 正二位松平源慶永 明治六年五月四十四歳九ヶ月

天保九年戊戌十月二十日家督、同年十二月叙正四位下任左近衛

權少將、嘉永四年辛亥十二月十六日任左近衛權中將、安政五年

戊午七月五日致仕、文久二年壬戌七月九日政事總裁職、同三年

癸亥三月廿八日辭職、元治元年甲子正月朔日参予、同年二月十

五日京都守護職、同年四月七日辭職、同年同月十一日任参議叙

正四位上、慶応三年丁卯十二月九日議定、明治元年戊辰正月十

七日内国事務総督、同年二月十九日更ニ内国事務局輔、同年閏

四月廿二日更ニ議定、同年六月二十七日叙從二位任權中納言、

同二年己巳五月十五日任民部官知事、同年七月八日任民部卿、

同年八月十二日兼任大藏卿、同年同月二十五日任大学別当兼侍

讀、同年九月二十六日叙正二位、同三年七月十三日被免本官兼

侍讀、麝香間祇候

ノ

一五月廿三日明廿四日於天德寺豐仙院様百五拾回忌御法事御執行相

成候

但シ夕刻に御経始ニ付、御令扶三人・書記老人御寺詰罷越候

一五月廿四日豐仙院様御法事御執行ニ付、天德寺江御参詣被遊候、

但シ御経中御詰ハ不被遊候

正四位様より 御香奠金貳百疋

正二位様

御簾中様 御香奠金貳百疋

御前様 御代拝御家扶

一同断ニ付御法事料

米拾俵 天德寺江

右之通御送与相成候

一五月三十日去ル廿六日大久保内務卿帰朝ニ付、本日皇太后宮・皇

后宮江謁見御陪食被命、依而公にも被為召、左之御方々御同食相

成候

山 階 宮

大久保内務卿

中山従一位

御

伊達従二位

仏式楽隊奏ヲ奉 仏人一名指揮 皇上玉座着御、皇太后宮・皇后宮御座着、御一同謁見、両皇后宮楽隊奏樂二・三曲畢入御、侍従供玉食被召、臣下江賜御膳、奏樂供御菓、臣下二茶菓ヲ賜フ、畢テ立札退去、宮内省工御礼申上退散

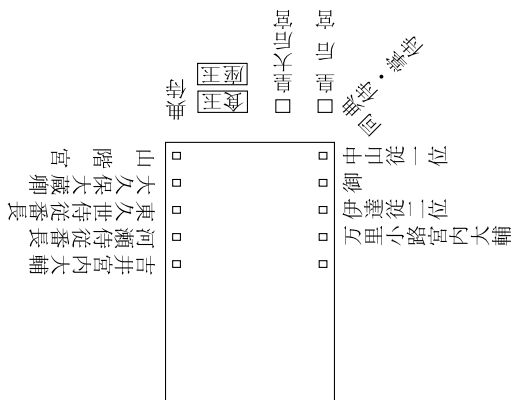
御汁摘入 御膳 御向 御香物 奈良漬・沢菴 御吸物 茄子・鶏

御刺身 鯛・赤貝 御皿 鯉ノ子・鯉ノ甘煮 御皿 錦玉子・蒲鉾・紅芋

(葡) 蒲萄酒

氷一片ツ、

御菓子 金玉糖 菊餡餅



一同日正二位様御令扶之内老人、宮内省江出頭候様御呼出二付、堀庸出頭候処、宮内省御印鑑七百八十式番杓立花少録被相渡候二付、請取帰御手許江差上候事

但此御印鑑者当時宮内省中江御所持御出勤被遊候事

一 六月九日青松院様三回御忌御法事、陽曆御日取七月十日御相当之處、正二位様思召ヲ以本月十日江御引上、今九日夕々明十日朝迄御執行被遊候二付、未刻より御家扶初書記老人天徳寺江御経中相詰申候

一 六月十日青松院様御法事昨夕より御執行二付、正二位様・御簾中様七時御供揃ニ而御参詣、御経中御詰被遊候

一同断二付正二位様・御簾中様御相合ニ而、御附御法事御執行相

成候

正四位様 御香奠 金貳百疋

正二位様 同 同貳百疋 御規定百疋之處思召ニ而貳百疋被供之

御簾中様 同 同百疋

御前様 同 同百疋

一同断二付御法事料左之通被供之

一米拾俵 但(五俵被供御成規之處、思召ヲ以別段五俵ヲ御増し合而拾俵被供候事)

正二位様・御式所様より

一 御附御法事料 金五百疋

一御香奠 御相合ニテ

金貳百疋

一同日東京府より至急御呼出ニ付堀庸出頭候処、左之領収証御渡ニ相成候

皇城炎上ニ付献金

証

正二位松平慶永 納

正四位松平茂昭

一金貳千円

右正請取候也

明治六年六月九日

宮内省

出納課

ノ

一同日正二位様為御墓参、福井表江被為入候御沙汰之旨被仰出之

一同断ニ付左之通被仰付之

(今般正二位様為御墓参福井表へ被為入候ニ付、御供被仰付候事)

香西 成

右同断

蟹江太平

山沢 簡

一六月十三日正二位様為御墓参被為入候ニ付、左之通御願書御差出相成候

私儀為墓参敦賀県福井表江罷越度、依之日数六十日之間御暇被下置候様奉願上候、此段御執奏相願候也

明治六年六月十三日

第一大区十四小区
蛸壳町一丁目二番地

正二位松平慶永

東京府知事大久保一翁殿

但シ

六月十五日至急御呼出ニ付堀庸出頭候処、左之通御附紙を

以御指図相成候

願之通御聞届相成候、此旨相達候事

一六月十七日正二位様明十八日福井表江御出發ニ付、左之所々江御届書御指出相成候

東京府 史官 宮内省 敦賀県庁

今般願濟之上、為墓参明十八日此表發途敦賀県福井表江罷越候、此段御届申候也

明治六年六月十七日

正二位松平慶永

東京府知事大久保一翁殿

ノ

金拾円

香西 成

金五円

蟹江太平

同

山沢 簡

御直筆 右福井表江供申付候ニ付、乍聊従手許令授与候事

一六月十八日正二位様本日福井表江御発駕被遊候、第五時三十分御供揃ニ而真崎御別館より御発車、新橋停車場七時発汽車江被為召、

八時三十分前神奈川駅江御着、夫々御駕乗二相成候事

一右同断二付正四位様新橋停車場江為御見送被為入、御簾中様より御見立田代弘被遣候、御家令伊藤輔始御家従之面々神奈川駅迄御見送罷出候

御道中御泊附

大磯	六月十八日	箱根	同	十九日	
吉原	同	廿日	鞠子	同	廿一日
日坂	同	廿二日	浜松	同	廿三日
御油	同	廿四日	鳴海	同	廿五日
尾越	同	廿六日	春照	同	廿七日
梁ヶ瀬	同	廿八日	今庄	同	廿九日
福井	同	卅日			

一正二位様より御家扶江之御書下左之通

朝廷布告之事

東京府廻達正四位江之者留守中之分ハ一集シ、着後二真崎江可差出候事

中山方廻達者正二位江之ハ是亦留守中一集シ、着後真崎江可指出候事

麝香問より之廻章前同断之事

留守中特命全権大使帰朝候ハ、早々北地江報知可指出事

留守中東北往復書状可成丈細字嵩取申間敷事

往復書状之外木下十之介定便といへとも無用之品物并被進品等

一切廻シ無之事

但シ不得止儀有之、日用之品福井より申越候節ハ成始留守宅より要用之

品廻送等之儀ハ非此限

其外臨時之取斗非此限候事

万一田安其外被進物有之福井江廻し候様申来候共、一切廻送致間敷候事

但着後差出可申候事着迄難指置、腐敗等之妨碍ヲ生する恐れある品者、久人江申談室田へも申置所置可有之事

来月隆徳院殿正辰代拝可有之事

来八月十三日・十四日瑤池院一周忌修行之事

明治六年六月十八日

一六月廿四日先般御布令之階級并履歴御届、御両君様共東京府江御指出相成候

階級御届

明治二己巳年九月廿六日
被叙正二位

茂昭養父隠居

正二位松平慶永明治六年六月十四歳六ヶ月(マケ)

東京府貫属
第一大区十四小区
正四位松平茂昭隠居

華族

正二位松平慶永錦之丞

明治六年六月

四十四歳拾ヶ月

一慶応三年丁卯十二月九日議定被仰付候事

但忽忙之折柄御達書全文留記無之候事

一明治元年戊辰正月十七日左之通御達

松平大藏大輔

内国事務総督被仰付候事

年月日

一同年二月十九日左之通御達

越前宰相

議定職内国事務局輔被仰付候事

年月

一同年閏四月廿一日辭議定

一同年同月廿二日更ニ議定被仰付候事

但同断全文留記無之事

一同年六月廿七日左之通御達

越前宰相

任權中納言叙従二位

右宣下候事

年月

一同二年己巳五月四日左之通御達

松平中納言

本官ヲ以テ行政官機務取扱兼勤被仰付候事

年月

一同年七月八日被任民部卿

但御達書全文留見当り兼候事

一同年八月十二日

松平民部卿

兼任大藏卿

右宣下候事

年月

一同年同月廿五日左之通御達

松平民部卿

任大学別当兼侍読

右宣下候事

年月

松平大学別当

免民部卿兼大藏卿

右宣下候事

年月

一同年九月廿六日被叙正二位、左之通御達

松平従二位慶永

大政復古之際ニ当リ勅ヲ奉シテ力ヲ皇室ニ尽シ、以テ今日ノ
績ヲ賛成候段叡感不斜、仍賞其功位階一級ヲ被進候事

年月

一同三年庚午七月十三日左之通御達

免本官兼侍読候事

松平大蔵大輔

年月

松平正二位

麝香間祇候被仰付候事

一同四年辛未七月十五日左之通御達

正二位松平慶永

御維新以來綱紀更張御施設相成候処、方今内外之形勢前途之事業不容易、深ク御配慮被為在、今般一層御釐革被遊候御趣意ニ候、特ニ復古之際尽力致シ候儀ニ候得者、始終之成功ヲ奏シ候様被仰出候ニ付而ハ、国事御諮詢被為在候間、無忌憚建言宏謨ヲ可奉裨補候事

支干月

ノ

一七月十日正二位様去月廿九日福井表江無御滞御着被遊候段、去ル三日發郵便到着奉恐悦候

一七月十四日先般皇城炎上ニ付、麝香間御一統左之品々御内献相成候ニ付、御入用代別紙御割合伊達様御世話元御割合御廻達、御壺軒分御割合伊達様へ御廻シ相成候事

一御小簞笥 一御姿見鏡

一御時計但鎖共

右三口各家所持之品故請取書無之

一御胴乱 一御遠目鏡

一御牡丹

右洋人請取書有之

ノ

御内献進目録

皇上江

一御姿見鏡壺面 代百円

コロメートル 一御時計壺 但鎖共 代五百七拾円

一御遠目鏡壺 代七拾円

シヤツ 一御牡丹式組 代七拾壺円式拾五銭

皇后宮江

一蒔絵御小簞笥壺 代百五拾円

一御書物六部壺箱 代拾両式歩壺朱壺匁七分五厘

外箱長持其外御入用共

惣ノ金千六拾兩壺歩三朱六貫八拾四文

銀三百九拾壺匁式分五厘

右拾八軒方割

御壺方分金五拾九円壺歩五百九拾三文

右御入用代如斯

一七月廿九日福井表去ル廿一日発飛脚着、正二位様益御機嫌能、去
ル廿六日福井表御発途可被遊旨申来り候

御泊附

御発駕七月廿六日 武生 七月廿六日

中河内七月廿七日 春照 七月廿八日

墨股 七月廿九日 宮 七月三十日

赤坂 七月卅一日 浜松 八月一日

島田 八月二日 興津 八月三日

沼津 八月四日 宮ノ下八月五日

藤沢 八月六日

御着 八月七日

ノ

一八月三日正二位様去月廿六日弥福井表御発途、左之御休泊ニ而御
着京可被遊旨、御用状を以申来り候、但シ御休泊前記之通

一八月六日正二位様昨夜藤沢駅御泊ニ而、神奈川ノ午後二時汽車江
被為召、益御機嫌克午後四時真崎御邸江御着館被遊、奉恐悦候
但御馬車新橋停車場迄為御迎御指出、御家扶井上徹同所迄為御
迎御指出相成候

御供帰京

香西 成

一八月七日正二位様御帰京ニ付、左之通御届相成候

蟹江太平

山沢 簡

抱中間

今村源之助

中野良助

中島雄次

石川潜右衛門

県地ノ御見送

土屋化遊

本多七平

高田利雄

原 益雄

小村 績

天谷五郎七

同所抱中間

彦蔵

勘平

音蔵

右御供之面々并御待受御家扶・御家従之面々、今夕於御前御酒
肴被下置候

私儀願濟之上為墓參六月十八日爰元發途、敦賀県福井表江罷越候処、昨六日夕帰京仕候、此段御届申上候也

明治六年八月七日

正二位松平慶永

東京府

宮内省

敦賀県庁出張所

○正二位様福井御滞在中御日記拔萃

一六月廿九日七時四分益御機嫌克福井御着被遊候

一御旧臣士・卒族各所御出迎、御泉水御邸迄御供致候

一御着之上、是迄御懇意并二御側向相勤候面々、御歛罷出候

一御三度御膳御懇意之面々献進致候

一今晚為御機嫌伺罷出候面々、夫々被為召御酒肴被下之

松平鷗客・本多釣月・中根雪江・秋田豊・平本松雲・毛受洪

・大井弥十郎・勝木十蔵・桑山十蔵・真杉一・中村市右衛門

・草尾一馬・高村高・毛利元蔵・加藤藤治・高田正

一六月三十日今朝九時御供揃御菩提寺惣御参詣、御歩行東光寺御

靈屋・御廟共、夫々孝願寺江御参詣、御靈屋御拝後御廟御拝、孝願寺様御廟御花御手備、運正寺御靈前浄光院様・天梁院様・諦観院様・有覺院様・昇安院様・德正院様以上御手備被遊候、雨降候二付御駕御廻し、是より御駕乘瑞源寺江御参詣被遊候

一今夕波釣月・中根雪江・大井弥十郎・高田正被為召、御夜喰御酒肴被下相成候

一七月一日九時御出門二而神明・愛宕足羽宮御社参被遊候

一七月二日運正寺天梁院様御靈前江御参詣被遊候

一七月三日八時前御出門二而永平寺御参詣、夫々御帰路松岡天竜寺江御参詣被遊候

一七月四日午後二時御出門二而新田神社御参拝、酒・米・魚・塩御備、御祭文御読誦有之、夫々愛宕招魂社江被為入、御手備同断、御祭文御読誦

故半井 保 故矢島禹年

右墓所江切花被下候事

夫々土居原町波釣月邸江御立寄被遊候、御供毛受洪・香西成・高村高・蟹江太平、釣月邸へ罷越候面々村田参事・長沢鷗客・

本多溪南・土屋化遊・大井弥十郎

右二付御酒肴・御飯等指上、一統御相伴被仰付候

一七月五日今夕左之面々被為召、御酒肴・御飯等被下置候

荻野窓入^{御断申上}・静帰耕・大宮藤馬・千本東岫・土屋化遊・

中村松濤・原晚翠・近藤雄蔵・日比彦之丞・武田閑翠・井原悠

鹿・高田三郎・岡部有溪^{御断申上}・大関遊川・河合太郎大夫・

林泉友・岡田静眠・浅見涼二・村田竜之進・荒川汝水・川村藤

市郎・菱沼龜叟・猪子九十九・長崎基近・横井五百里・山野凌

・長谷川源之丞・秋田露曉・鈴木準道・武田正規・山本新七・

青木万貞・堀平太夫・小林嘯峰・大崎七太夫

一七月六日今夕二時後御出門二而船橋川江被為入、千本久信・同

東岫・同貫一・出淵伝之丞・大谷遜・小村續^〆御酒肴差上之、

会社・兵隊より鮓汁献上仕度旨申上二而、其日何茂川狩所獵ヲ

以テ差出候、森田酒造家桜屋方ニ於テ御小弁当被召上、御乗舟

二而叩キ川御覽、夫^〆一統並居所江被為入、隊長五人江御酒御

手酌被成下、一同江丹釀四挺・鰯五拾把・小鯛三百七拾尾被下

之、左之面々被召連候、長沢鷗客・本多釣月・毛受洪・大井弥

十郎・高田正・高村高・有賀尚之助、被召連候御供香西成・蟹

江太平・山沢簡罷出候

一七月七日午前九時御出門二而、安波賀社江御参詣、春日滝殿御

参詣、吉田運吉方二而^{運吉社司ナリ}御小弁当被召上、夫^〆松雲院江

御参拝、五時過御帰館被遊候

一七月八日九時御出門二而孝蹟寺江御参詣、浄光院様御霊前・御

廟御拝被遊、御花・御菓子御手備被遊候

一今夕六時御供揃二而左之面々被為召、御酒肴御料理被下之

荻野窓入・東風徐芳・菅沼静帆・菅沼与市郎・海福南岡・土屋

小六・梯左仲・田中勘介・山守東篁・吉田一学・八木寿・林忠

由・加藤清十郎・波々伯部弥六・浅井権十郎

一七月九日午前七時御出門二而大安寺江御参詣、御霊前江御菓子

御手備被遊、御廟之義ハ降雨二付香西成江御代拝被仰付、夫^〆

四十谷村安達利兵衛江^{農・酒造家}御小休、岸水^〆御乗船^{九十九船}

主長谷川源之丞・三好喜十郎罷出居、御船中二而御小弁当被召

上、三時後坂井港御着船、開明楼^{内田周平へ御止宿}区長・副長共罷出

候

一七月十日午前十時御供揃二而桜谷神社御参詣、区长副・戸長権

共罷出居、祠官村井収罷出居、同処二而御召替之上、右区长初

御目見被仰付、村井収同断、御菓子・御茶差上之、夫より札場

半左衛門陶器製造御覽ニ相成、三時後御供揃御歩行道実島渡辺
彦吉宅江御立寄、内田周平・内田曾平被為召、左之通被下之

御召御帷子

内田周平江

縞 帷子

内田曾平江

外ニ 金貳百正為御挨拶被下之

一 渡辺彦吉宅江被為入、諸処御覽、汐見町戸長副共罷出、御目見
被仰付

(被為召
御菓子被下之)

近藤 懋
田中和年

御三度御膳之節、千本久信始御前ニ於テ御酒肴被下之、中根牛
介伺御機嫌罷出候

柘植 浩

菅谷的平

木谷藤右衛門

右被為召御席画被仰付、御内々清水芳・渡辺彦吉妻御目見被仰
付之

一 七月十一日午前十一時御供揃ニ而森田三郎宅江御立寄、御二度
御膳被召上

上字判老枚

森田三郎

大判 老枚

同手代
青山新平

右之通献上之

夫ハ御乗船ニ而中根雪江方江被為入御止宿、為御慰松山清五郎
家伝火術御覽ニ入但シ無摺御問ニ而御覽ニ不相成候得共、折角骨折心配候
事故御酒老斗被下之

一 七月十二日午前十時十五分宿浦御立、御乗船ニ而御溯江、山形
より御下船、御乗輿五時過御帰館被遊候

一 七月十三日七時御供揃ニ而運正寺江御参詣、今日淨光院様奉始
御歴代様御法事御執行、午前八時同十時二座御経中御詰被遊、
午後將悟院様御十七回忌御法事一時三時二座御執行

但午後三時之御経ハ協合講社中ハ御手伝申上候

運正寺ニ於テ御二度御膳指上之、御経濟協合講世話方者江御意
有之、御着坐之上毛受洪初御世話申上候者江別段御意有之候

一 七月十四日三時御供揃ニ而御遊歩之御序、神宮寺町妙経寺支配
善慶寺江御立寄、故橋本左内墓所江香花御手向被下、夫ハ大橋
際神宮常夜灯御覽、駒屋羽江出頭御延見、夫ハ御舟町通長沢鷗
客宅江奉饗請候ニ付被為入、御供毛受洪・静帰耕・高田正・香
西成初三人酒井政衛・長崎千里・波釣月御召連相成候

一 七月十九日午前十時御出門御遊歩之御序、多田善四郎方江御立
寄、御茶・御菓子・御二度御膳指上之、夫ハ杉田無二介屋鋪裏

柴田修理進勝家社御拜、二時前御帰館

御召御帷子
鶏卵

壺巻
壺箱

多田善四郎

雷箋

壺巻

同 万助

右被下之

一 今夕元奥女中相勤候田生桃寿・西川桃水・酒井梅・篠原さち・
原督・市村さき・横山^(マ)・波々伯部美代・戸田とゑ・埴原な
か等被為召、御酒肴被下置候

一 七月廿日今夕六時揃左之面々被為召御酒肴被下之

伯元・酒井嘉多志・山県昌・芦田源十郎・岡部長・大谷丹下・
波溪南・田中溪疑・白石小十郎・比企左門・小林直記・加藤常
之助・久世久・堀一二・真田源五郎・井戸惣三郎・生駒彦太郎
・数賀山郡平・沢田四郎平・周防謙介・林常盤・齊藤秋雄・久
野武雄・水野荒次郎・下山確介・高久官太・田中^(マ)・奥村桐
之丞・田辺幾平・森豊吉・斎藤鉄次郎・玉村与八郎・中川廉蔵
・出淵肇・鈴木重弘・高村新造・勝山焉・今立春翠・柄田駒之
助・林包武・小倉豊・市橋環蔵・村野達雄・渥美無手二・尾崎
涼・真木智・町田静・津保知良・勝木儀一・林左治衛・鈴木政
太郎・野村実済・岡規・井原立二・尾崎茂左衛門・大谷直

ノ

一三盆白砂糖

壺折

故連伝兵衛妹

一羊羹

壺箱

鈴木重弘母

一 御召御紋御帷子

駒屋羽江

右被下之

一 七月廿一日今夕根来久良人・山野凌被為召、御酒肴被下置候
右者福井御滞在中之御用留より書拔候也

ノ

一 八月十三日明十四日瑤池院様御一周忌御相当ニ付、天徳寺ニ於テ
御法事御執行被仰出、自今夕至明朝相勤候、依之第二時より御家
扶井上徹・御家従堀庸御経詰出勤致候

一 八月十四日瑤池院様御法事ニ付、午前八時正二位様天徳寺江御参
詣、正四位様同九時同断、御家扶初御家従并女中向共参拝御経中
相詰、右ニ付御賄被下相成候

但御賄之儀ハ天徳寺江御任セニ相成、五拾人前準備、御供養と
して御菓子も被下ニ相成、委細会計局ヲ照会相成候事
一同断ニ付

御四方様より

御香奠 金百疋ツ、

御法事料 米貳俵 近來之御成規

別段 米貳俵 御備

一同断ニ付正二位様・御簾中様より御附御法事有之候

御附御法事料 金五百疋

御相合ニ而御香奠 金貳百疋

一八月廿四日正四位様・御両所様本日〆相州湯本温泉江御湯治被為入候ニ付、正二位様御留守御心得被遊候条、御届書御指出ニ相成候

第壹大区十四小区
蛸壳町壹丁目二番地

華族隠居 正二位松平慶永印

今般私儀願濟ニ而相州湯本温泉湯治留守中、前書隠居慶永留守御用之儀為相心得候、此段御届申上候也

明治六年
八月廿四日 第壹大区拾四小区
蛸壳町壹丁目二番地 華族
正四位松平茂昭

東京府知事大久保一翁殿

一九月十日正四位様・御前様第三時横浜表御発車、四時三十分箱根表〆益御機嫌克御帰邸被遊候、正二位様・御式所様より為御迎、蟹江太平同所迄御使被仰付候

ノ

一九月十五日正二位様御側仕ふし、午後第七時三十分分婉、御男子様御誕生奉恐悦候、依之御家扶初御家従一統真崎御邸江罷出、恐

悦奉申上候

岩倉右兵衛督殿

交御看壹折

右者一昨十三日御帰朝ニ付、両公より為御歛以御使者被進之

一九月十七日前記御男子様御出生ニ付、左之通御届御指出ニ相成候
一昨十五日午後第七時、隠居正二位慶永妾腹之男子出生仕候、此段御届申候也

第壹大区拾四小区
蛸壳町壹丁目二番地

正四位松平茂昭印

東京府知事大久保一翁殿

一九月(マヽ) 権典事業室光子殿分婉、皇子降誕之处、即刻薨御之段御布達有之

御家附属 杉田伊之助

真崎御邸御普請格別出精相勤候ニ付、別段之訳ヲ以以来御作事方申付、月給七円ツ、被下候事

ノ

第五大区九小区
下谷坂本町貳丁目一番地
伊藤かの娘とく

右御誕生様御乳持ニ被召抱候

九月廿一日御誕生様江御名六之助様と被進、御使御家令伊藤輔被仰付候

御名目録 御肴 御産衣

右被進之

一御誕生様御名奉称六之助様与諸向江被仰出候

一同日六之助様御簾中様御養二被仰出候

六之助様御乳持とく

右御暇被下候

(郷)(領)
埼玉県下式合半郡
高次村農

(須)
清水清助娘はな

右六之助様御附御乳持二被召抱候

一十月六日清心院様御儀御病氣之处次第二御持重^(指)り、余程之御容躰

二被為入候二付、即刻御家扶伊藤輔・井上徹本所石原御邸江被遣、

正二位様午後四時頃御供揃二而御同邸江被為入、為御見廻田代弘

・山本謙^{御医師}被遣奉拝診候処、追々御疲勞被為増候旨二而、御案

思不啻思召候

一十月七日清心院様御事御病氣御養生無御叶、昨六日午後七時四十

分御卒去被遊候旨、為御知有之奉恐入候、依之即刻御家扶三人石

原御邸江被遣候

右同断二付、御両君御忌服被為請候二付、東京府江御届御指出二相成候

從五位阿部正桓養祖母病氣之处、養生不相叶昨六日午後七時死去仕候、依之養父隱居慶永儀養娘之続二付、定式左之通忌服為請申候、此段御届申候也

明治六年十月六日

第壹大区拾四小区
蛸壳町壹丁目二番地

正四位松平茂昭

東京府知事大久保一翁殿

忌十日 明治六年十月六日
同月廿五日迄

服三十日 明治六年十月六日
十一月四日迄

一右同断二付、御家從之面々来ル十二日迄高声可相慎、猶御忌掛り中相心得可罷在旨、御布達有之候

一十月八日清心院様御出棺之儀、明九日浅草西福寺中墓地借受、御神葬二相成候旨為御知有之候

但清心院様章姫命卜御追諡被為在候事

一十月十四日

御附 蟹江太平

御都合も有之二付、真崎御邸近傍二於テ御小屋拝借被仰付候

一十月十八日

御附 佐野 久

御都合も有之二付、元御貸被下候隣御小屋江御振替被成下候事
但シ御用弁御都合ニ寄り、御邸^{真崎}内移住之事ニ被仰付候也

一十月廿四日御本邸ニ而扱所江左之通御届ニ相成候

来十一月三日天長節ニ付、隠居慶永儀當時麝香問詰ニ付、別紙
之通式部頭殿^〇依御布達参省候間、東京府江名刺不指出心得ニ
候、此段御届申上候也

明治六年十月四日

松平茂昭内 伊藤 輔

戸長御中

一同日左之通被仰付候

第壹大区五小区品川町壹丁目 中村由松
平野金次郎方同居

右之者御膳所御料理向之方江御雇入候

但年給五拾五円

一同日正二位様麝香問御拜命之年月、東京府江御届指出候様御達御
届書堀庸持参候処、請付所岩瀬某落手相成候

一十月三十日左之通御廻達

各位益御勇健奉賀候、扨昨日御示談御座候ニ付、坊城殿江問合

候、左之通ニ付及御廻達候也

御一列御不快御不参御届、式部寮又ハ同寮赤坂出張江御届可然
哉御尋承候、赤坂出張式部寮江御届可然候也

十月三十日

池田侯 慶徳

一十一月三日天長節ニ付、午後一時御供揃ニ而正二位様御拝賀御参
内、酒饌賜御退省之事

一十一月七日両皇后宮高輪毛利元徳邸江行啓御途中、靈南坂ニ而御
馬逸シ御車溝渠中江転覆候処、尊躰御障碍不被為在候段御聞込ニ
而、翌日御参朝御機嫌御伺相成候

一十一月十一日六之助様御儀正四位様思召ニ而、末々御家督御相続
之御治定被仰出、御家従之面々江も御達相成候

一十一月十三日皇女御誕生被為在候処、直ニ薨去御停止承候日より
五日間ニ而、為天氣伺参朝候様被仰出候

一十一月十五日真崎戸籍扱所江左之通御届相成候

止宿人別御届

華族 正二位松平慶永
明治六年十一月四十五歳三ヶ月

二男
同
六之助
三ヶ月

白井久人

蟹江太平
同
三十六歳

佐野 久
同 三十六歳七ヶ月

正四位松平茂昭家丁

今川新助
明治六年十一月二十九歳十一ヶ月

中村多助 四十一歳二ヶ月

今村藤四郎
同
二十六歳十ヶ月

中島雄二
同 三十三歳二ヶ月

松島佐平
同
五十才五ヶ月

植村庄之助
同
二十九才十ヶ月

吉村定吉
同

同く
二十五歳三ヶ月

ふし
同

十八歳一ヶ月

たき
同

十九歳五ヶ月

同きよ
十五才

くめ
同
二十五才十ヶ月

同ふさ 三十四才五ヶ月

はる
同

二十一歳

合貳拾壹人
男十二人
女九人

右者第壹大区拾四小区蛎壳町壹丁目貳番地本邸修繕中、橋場町地方五番地へ止宿罷在候、此段御届申上候也

明治六年十一月

第壹大区拾四小区
蛸壳町壹丁目貳番地
正四位松平茂昭代
伊藤輔

第拾大区小三区

戸籍御扱
御中

一
同
日

正二位様
御手許算者被仰付

大森豊治

一十一月十六日

正四位様

御肴壹折

六之助様江

右者御繼嗣御治定ニ付被進之

六之助様

同

正四位様江

右者御同様被進之

一十一月十八日戸籍方布達ニ付、御両君様御明細書三枚宛東京府

江御差出相成候

一十一月廿四日六之助様御事、昨夕四時頃俄ニ驚風之御症御発シ、種々御療養御加之処、夜九時頃些シク御緩慢之御容躰ニ被為在候処、亦復十二時比御発動、次第ニ御危篤之御場合ニ被為至、今廿四日午前第七時終ニ御卒去被遊重々奉恐入候、七歳御未滿ニ付正二位様三日御遠慮、正四位様一日御遠慮被遊候、依之東京府始へ御届書御指出ニ相成候

同苗正二位慶永男六之助儀病氣之処、養生不相叶今廿四日致病死候、七歳未滿之儀ニ付、正二位慶永儀今廿四日〆廿六日迄日数三日之間遠慮引籠罷在候、此段御届申上候也

明治六年十一月廿四日

正四位松平茂昭

東京府知事大久保一翁殿

右同断ニ付御邸中御家従之面々戸触左之通

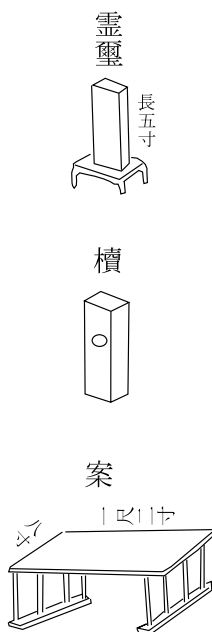
六之助様御儀御病氣之処、御養生不被為叶、今廿四日午前七時御卒去被遊候、依之今廿四日〆廿六日迄御家従之面々末々迄鳴物・高声被停止候事

但致懸り候普請之義ハ不苦、尤御葬送相済候迄ハ銘々可有心得事

一六之助様御遺骸天德寺へ御埋葬被仰出候ニ付、不断院呼出其段御達ニ相成候

右同断ニ付御廟所松栄院様御玉垣之内右之方へ御埋葬御取極相成候ニ付、為地処見分御家扶并会計之者罷越候事

一六之助様御事正二位様思召ヲ以、御神葬ニ被為行候旨被仰出候ニ付、真崎神明祠堂鈴木騰彦御依頼ニ相成、御葬儀并ニ御飾付等悉皆同人江御委任相成、同人〆左之通書付ヲ以御支度候様申出候事



一內衣 冬ハ裏アルヘシ、タチヌイノマ、常ノ如ク
一襯衣 長ハ膝トヒトシク

一布帶 布ヲタ、ミテ作

一衾褌 イツレモ三幅、長六尺其人ニ応スヘシ

一野草衣 イシカタデラ 四幅長八尺夏冬裏ナシ

一柳 ホ、トコ 材松ノ服アルヲヨシトス、二三寸底ナシ

一棺 其人ニ応シ作ル、材ハ被ヲ用ユ

一枕 桐ヲ用ユ長サハ棺ノ広サニ従フ

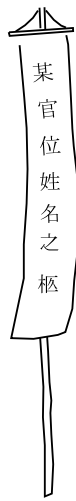
一充囊 布ニテ囊ノ如ク

一帊 オ、イ 大キサハ棺ニ従フ

一大輦 ヒツキノコシ 俗ニレンタイ

一凳子 高サ一尺 二脚

一幡



一六之助様御事

稚梅彦命ト奉称候旨被仰出候事、依之御家従之面々江御触

示相成候事

一右御卒去ニ付左之御方々様江為御知相成候

御本邸

細川様 田安様 鍋島様 立花様 津山様

雲州様 明石様 細川様 清崎様 確堂様

鍋島

筆姫様

一十一月廿五日稚梅彦命廿六日午後一時天德寺江御送棺被為在候
旨被仰出、依之御家従之面々江布達、且又左之品々御用ニ付御支
度候事

一名簀 壹本 一提灯 八張

一松明 八本 一櫛 七尺斗 壹本 五色結懸

一傘 壹本 一白杖 壹本

一棺 但桐枕添 一墓誌 壹本

一靈璽 壹個 一八足机 内一尺五寸二 四脚 三尺二

一高八足机 壹脚 一卒櫃 壹個

一三寶 拾五 一酒瓶 貳対

一大小 三十枚 一灯 二本

一ムシロ 貳十枚 一赤白簀 四本

一同日今晚九時稚梅彦命御納棺御式被為行、御方々様御棺拝之後、
御家従之面々并奥女中一統御棺拝被仰付候

誌版正 銅一步板寸法曲尺立八寸五歩
巾五寸五歩

君名六之助正二位慶永卿男、母細川氏実糟谷氏之出也、明治六
年九月十五日生、同年十一月廿四日病殤葬于天德寺

一正二位様御吊文

嗚呼痛乃稚梅彦此二魂ヲ移 志天平計久我此憐武心乎受給開与

十一月廿六日今午前一時、稚梅彦命御行列揃二而、愛宕下天徳寺
江御葬送相成候 ※

※(ゴム印)
「大正十五年七月品川
海晏寺墓地ニ改葬ス」

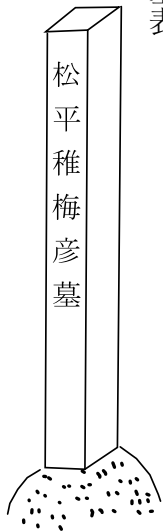
御行列

御先警固一人 御名旗二人 神官 櫛二人 高張一人
箒一人 白張提灯一人 櫛一人 赤旗一人 松明一人 神官
御近習 御棺 人足 白杖一人 高張一人 白旗一人 御傘 斎主
御近習 同 白張一人 辛櫃二人 机一人 御墓標二人 御跡乗口付 惣供
挟箱 目籠 御館入町人

一正二位様御誄辞

嗚呼悲哀乃稚梅彦仁告麻久白須汝此顯世越里昨晚乎悲美津歎幾津
柩仁納米今日波葬乃日仁成波多礼午乃時仁此住馴礼隅田川乃庵乎立出
西窪乃愛宕乃山濃麓乃祖母濃命乃墓乃側仁送留今此柩仁向天汝乃顔
乎現仁見留如久対面天别礼白須從今汝我朝夕仁憂愁武心乎慰与嗚呼
哀之汝父正二位松平慶永告満白須

御墓表



右同断二付御先詰堀庸・鱸松江等罷越御支度等御準備、第五時
天徳寺江御着棺、夫々御葬儀相始り、畢而午後第九時御埋棺無
御滞相濟候事

御供

御後乗御家扶 香西 成
御棺脇 白井久人
土井貫弥
中根 新
御代拝

正二位様 香西成 御簾中様 白井久人 正四位様 中根新
御前様 中根新

一同断二付御見送御使者并御供之面々折弁当被下置候

十一月廿七日稚梅彦命御事、思召を以更二御仏祭御執行之旨被仰
出、其段天徳寺江御達二相成、御謚号奉進

有光院殿清誉遠香月夢大童子

右御開眼被為行、御両公御参詣御経中御詰被遊候

十一月廿九日稚梅彦命明三十日初七日二被為当候二付、今夕々明
朝迄於天徳寺御法事御執行、依之御家扶扈人・御家従扈人御寺詰
罷越候

一十一月三十日昨夕々今朝迄有光院様御法事於天徳寺御執行、正二位様午前九時御供揃ニ而御参詣、御家扶・御家従并奥向とも御寺詰罷越候

右同断ニ付

御両公様ハ

御香奠 金貳百疋宛

御簾中様・午前様ハ

同 金百疋宛

右同断ニ付

御法事料 米三俵

外ニ 式俵 思召ニ而被供之

御七々日御経料

金壹円ツ、

合而七円也

一十二月八日左之通蛸壳町御邸ハ御届書御指出相成候、来ル一月六日新年宴会被為行候ニ付、隠居慶永儀仮皇居江参賀申上候様、式部頭殿ハ兼而御達有之ニ付、東京府江者罷出不申候、此段御届申上候也

第一大区拾四小区

松平茂昭内

明治六年十二月

伊藤 輔

東京府知事大久保一翁殿

一十二月九日今曉一時比ハ神田祝町より出火之处、北風烈敷蛸壳町御邸追々御危難之御場合ニ而、已ニ御貸長屋不残御焼失ニ相成候得共、御屋形向ハ御別条無之奉恐悦候、御方々様ニも御披キ迄ニハ不被為至候、正二位様ニ者真崎御邸より為御尋被為入候

一十二月十四日来ル十九日頃主上真崎御邸江行幸被為在候哉之御内沙汰有之趣、堤少丞より申来候ニ付、同人江都而問合之上御用意被為在候

但過日山内殿江臨幸被為在候儀ニ付、右御振合御家従堀庸江被仰付為取調被遣候

一十二月十五日左之通御廻達御到来

来ル十七日午前第七時廿分御出門、横須賀江行幸・行啓被仰出候ニ付而ハ、同八時迄ニ御列外新橋ステーション江出頭可致旨被仰出候、此段申入候也

六年十二月十二日

宮内卿徳大寺実則

從一位徳川慶勝殿

從一位九条道孝殿

御 名 殿

從二位伊達宗城殿

從四位細川護久殿

追而雨天延引之事

一十二月十七日今朝第六時御供揃ニ而正二位様新橋ステーション江被為入、御列外ニ而横須賀行幸御供奉御勤被遊、翌十八日午後四時過御帰邸被遊候、御供蟹江太平出勤致候

一十二月十八日過日山内殿御邸江行幸被為在候節之御振合、為問調再度堀庸被遣候處、左之ヶ条写取復命候事

行幸之節手續

一主人小礼服御送迎共門外迄

一家令・家扶・家従共小礼服門内両側江出ル

一座上新ニ白綿布或ハ洋物之敷物ヲシク

一主人并ニ家族老幼一列ニ被召出、此時定レル式ナシ、婦人ハ

紋付着用

一献物

菓子一折 生魚一折 鴨五番

一御膳部初御当用之御品一切、内膳司雜掌課為御持ニ付用意ナ

シ

一御廁内課ヨリ同断

一諸官員馳走

菓子 飯折 洋酒 茶

一給仕者家從小礼服ニ而相勤、家丁平服座上關係ナシ

一還御後主人即刻參朝、宮内省江御札申上之
右之通ニ候事

一真崎御邸江内匠課之者兩人足五人召連罷越、表御座鋪・御椽側外江御飯御廁幕張ニ而出来候事

一十二月十九日正二位様江左之通御達有之候

今十九日午前第九時御出門、両国橋より御乗船ニ而隅田川筋橋場江行幸被仰出候ニ付、右為御小休其邸江臨御被為在候、依而此段申入候也

六年十二月十九日

宮内卿徳大寺実則

正二位松平慶永殿

御請

今十九日午前第九時御出門、隅田川筋橋場辺江行幸被仰出候ニ付、右為御小休慶永邸江臨御被為在候旨被仰下、謹畏奉候也

六年十二月十九日

正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一右同断ニ付正四位様・御前様・信次郎様第六時御供揃ニ而、真崎御邸江被為入候事

一右同断ニ付御家扶始御家従之面々、小礼服着用御同所江罷越候事

一同日第十時比橋場渡船場角三条殿御邸江臨御、夫より御同処橋詰より御船上り被遊、正二位様小礼服御召・正四位様御同様御上り場迄御出迎、午前第十一時真崎御邸江着御被為在、表御座敷ニ於て御簾中様御紋付御召服・御前様同・信次郎様小礼服御召被拝竜顔、引続御二度御膳御用意、内膳司之者其前出役、御支度出来ニ而被為召上、御重代御太刀・御重器之品為御慰天覽被為在、且左之品々御進献、徳大寺殿披露之

御菓子壺折
(但杉折式重箱長式尺)

鯉 式喉
(但御邸傍百姓文右衛門へ被仰付御邸前隅田川ニ而漁獵之品)

鱶 壹桶
(但稻荷堀御邸池ニ而漁獵之品)

但御進献之上御披露濟宮内省江廻呈、高橋太市指添罷越

外二

鴨三番

小鳥拾羽

鯉 式喉

御膳御用献上内膳司江渡ス

右同断ニ付左之御方々御先詰并ニ供奉人員、洋酒并折詰弁当差出之

一午後二時三十分還御被為在候ニ付、正二位様・正四位様・信次郎様御乗船場迄御見送り被遊候事、御家扶・御家従之面々入御之節之通、御門前江罷出候事

一還御後為御礼即刻御供揃ニ而宮内省江御參被遊候事

供奉

○印上折

杉式重折
茶碗盛
刺身
葡萄酒・シヤンパン
ビール

○ 卿 壹人

○ 輔 壹人

○ 侍従長壹人

●印中折

片木折
碗盛
葡萄酒・ビール

○ 大小丞之内壹人

○ 侍従 貳人

▽印中折
ビール

○ 九等出仕壹人

○ ●侍医御藥室貳人

● 内膳課壹人

● 等外 壹人

● 雜掌 四人

御先詰

○ 丞 壹人

○ 侍従 貳人

● 録 壹人

▽ 等外 貳人

● 御雇出仕壹人

● 東京府十等出仕壹人

● 内匠課壹人

▽ 等外 壹人

- △ 大工 壱人
- △ 人足 六人
- 調度課 壱人
- 等外 壱人
- △ 夫卒 拾四人
- 外二 御船土官 拾貳人
- △ 水夫 貳拾人

明治七甲戌年

一 臨御無御滯被為濟候為御祝儀、表御座之間ニ於テ正二位様・正四位様・御簾中様・御前様・信次郎様御椅子ニ而、御家扶初御家従・女中向江一列ニ而御料理・御酒等頂戴被仰付、其節正二位様御祝詞左之通御朗誦

今日天皇陛下辱クモ此邸ニ臨御シ玉フ、臣慶永驚惶感泣ノ至ニ堪ヘス、依而聊宴ヲ開テ会同ス、共二十分盛恩優渥ニ浴シテ、歡喜ヲ尽サンコトヲ庶幾ス

明治六年十二月十九日

御名

一十二月廿九日

(真崎御邸御普請出精相勤候ニ付御目録之通被下之)

鱸 松江

御目録 金七百疋

(真崎御邸御普請骨折相勤候ニ付被下候事)

杉田伊之助

一 桐御紋付木綿
(真崎御邸御普請御用出精相勤候ニ付別紙之通)
別紙 金三百疋
近江屋伝左衛門

右表ニ而御取扱相成候
(度々御出生被為在且年来出精ニ付格別之訳を以年々金三拾円ツ、被下候事)
但盆暮兩度ニ御授与之事
御中臈 ouchi

一 一月一日御方々様、益御機嫌能被遊御超歳奉恐悦候、御屋形向年始御式都而御省略御近例之通ニ候事、正二位様八時御出門御參朝被遊候、御家扶・御家従之面々追々罷出御祝儀奉申上候、御酒肴頂戴之

一 一月三日元始祭ニ付賢所神殿江御參拜被遊候(但御手狭ニ付惣華族方ハ御參拜無之)

一 一月六日新年宴会ニ付八時御出門御參朝、於宮内省酒饌御頂戴被

遊候

一 一月十日有光院様御四十九日ニ付、天德寺江御代拝香西成被仰付候

御四方様御香奠金百疋ツ、
右被供之

十一月十二日清心院様御百ヶ日御相当ニ付、西福寺江御代拝、奥女中ニ而駒野被仰付、御香奠金貳百疋被供之

十一月十五日今午後七時過岩倉右府公御退朝之節、赤坂喰違ニ而為暴人御負傷被為在候条、宮内省当直岩佐純ヲ申上ニ相成候

十一月十六日前記之儀ニ付、御両公様ハ岩倉殿江御見舞御使者堀庸被仰付候

十一月廿九日左之通御届書御指出相成候

明三十一日横浜瓦斯灯点検ニ付、為見物同姓正二位慶永同処江罷越、同日一泊為仕度此段御届申上候以上

十一月三十日正二位様横浜表江瓦斯為御見物被為入、御一泊之上翌日御帰邸相成候

一二月四日

一靴貳足

内 沓足舶来コム仕立
沓足日本製

右者今般盜賊御召捕之处、橋場町地方五番地同姓慶永止宿邸江立入、盜取候段及白状候ニ付、紛失ニ相違無之候哉、近藤十右

衛門殿御出張ニ而、御取調相成候ニ付尚又取調候処、家丁今川新助と申者所持之口靴貳足、去ル十二月比紛失候段申出候、右者は迄折々犬狐之業ニ而紛失候義も儘之有二付、右様之儀与相心得穿鑿中未タ御届不仕段申出候ニ付、此段御届申上候

七年二月四日

御名内
堀 庸

東京裁判所
御中

二月十三日午前八時御出門池田様・伊達様御同車、岩倉殿・三条殿江為御用談被為入、夫ハ島津殿御邸江被為入、夫ハ御哥会ニ付被為召御參朝、御吸物・御酒御頂戴、外ニ御短冊沓葉御拝領、午後第六時御帰館

二月十四日東京府戸籍方ヨリ正二位様御令扶之内沓人出頭候様御呼出ニ付、堀庸出頭候処、御書付左之通御達相成候事

正二位松平慶永

復古功臣事蹟編集候ニ付、別紙例則ニ照準シ一身經歷ヲ編次シ、正副二本可差出、此旨相達候事

明治七年二月十四日 太政大臣三条実美

編集例則

一苗字 姓名実名

通称初何某後何某又ハ何ト号ス等詳記スヘシ、但シ壬申九

月百四十九号布告以後、通称名乗廃棄ノ分ハ朱ノ□形ヲ加ヘ弁別スヘシ

一 郷貫食禄

何府貫属元堂上諸侯庶人元何領管下国郡村名等ヲ詳ニスヘシ

一 生誕年齢

年号支干日月何府県何国郡ニ何地ニ生ル又明治七年一月齡幾年幾月

一 世系

祖父何某父母何某或ハ某ノ幾男某兄弟

一 履歴

復古前後ヲ論セス、総シテ国事ニ干涉シ時務ニ執掌セシ、凡其一身難苦経歴ノ事蹟ヨリ、官位・職務・祇役・征戦・褒貶・進退或ハ特命或ハ職掌ニ依リ担当施設セシ事務ノ顛末、及ヒ現今奉職ノ有無ニ至ルマテ、一切年月方所ヲ詳記シ、宣旨・建議・達書・策文等ハ原文ヲ掲ケ、次第編集シ事理ノ本末貫通理解シ易キヲ要ス

一 已ニ死去致シ候輩ハ親戚朋友ノ者其事蹟ヲ編集シ、死葬ノ年月方所碑表ヲ記シ、遺著類ノ其国事及其経歴・事蹟ニ関涉スルモノハ録上スヘシ

一 本年六月ヲ期限トシテ在官ノ者ハ史官、非職ノ者ハ其本管庁ヘ差出スヘシ

明治七年二月

正院歴史課

一二月十八日左之通

本日東京府ニ於テ相達候復古履歴書差出候事件ニ付、本課も申達度義有之候間、明十九日午前十時家令或ハ心得候者一名被指出度候也

七年二月十八日

歴史課長 從五位長松 幹

松平正二位殿

一 二月十九日昨日御達ニ付、本日第十時左院歴史課江堀庸出頭候処、齊藤少録面謁ニ而、東京府より御達申候事蹟編集認差出候儀ニ付、毎々御指出被成候履歴之外ニ、尚又相洩候儀も有之候ハ、詳細取調可指出、尤別段疎漏之廉も無之候ハ、其段書面を以御答可被成候事

一 同日元尾州ニ而貞慎院様御三回忌御法事御執行被為在ニ付、正二位様午前九時御出門ニ而、天徳寺江御参詣被遊候

貞慎院様御霊前江御香奠金貳百疋・御菓子壺台・御花壺対右之通被供ニ相成候

一 三月三日有光院様御百ヶ日御法事御執行ニ付、両大奥ニ而天徳寺為御参相成

御各殿より御花巻対・御菓子巻台
右被供之

一三月四日午前十時御出門ニ而、東本願寺江為御集会被為入

但シ過日来御同族方被仰合御集会、御族中之儀ニ付御評議向も
被為在候趣、爾来毎々御集会有之候得共毎次略之、曰ク華族会
館建築計画ニ係ル也

一三月十七日左之御届書御差出ニ相成候

復古功臣事蹟御編集ニ付、猶粗漏之廉も有之候ハ、猶又取調
早々指出候様御沙汰之趣、右者先般差出候家系・事蹟・履歴等
詳細取調指出候外、別段遺編之廉も無御坐候、此段御届申上候
也

明治七年三月十七日
正二位松平慶永

一三月三十日別紙之通被仰出候ニ付、御家扶詰処ニ於て御家従一統
江演達相成候

御直書写

去ル壬申家政改革家従之者多分減員、家扶始給料も格別減来
候処、又々今般禄税被仰出候ニ付而者、此上釐正も不致候半
而ハ量制も相立兼候次第、依而手許定額ヲ始今一層減省、猶
更簡易質素ニ基き度、先々給料も順次減削、別紙之通申付候

間、其段銘々可相心得候事

明治七年三月

今日御直書ヲ以被仰出候通、御手許御分量金御減少相成候ニ
付、自今猶以御主意厚相心得候様被仰出候事

正二位様

正四位様

御分量定額

老年千五拾円宛

御簾中様

御前様

同

金七百円ツ、

信次郎様

同

金四百貳拾円

月給
一金貳拾八円

伊藤 輔

外二 三円六拾七錢三厘三毛従前御手当三分一被下

同
一金貳拾五円ツ、

香西 成

外二 三円六拾七錢三厘三毛同断

井上 徹

同
一金拾七円五拾錢宛

中根 新

外二 三円六拾錢壹厘七毛 同断

田代 弘

木村重辰

右当分家從二御借受申度、御指支之儀も無御坐候ハ、此段相願候也

明治七年四月八日

第壹大区十四小区
華族

正四位松平茂昭

東京府知事大久保一翁殿

但シ木村重辰儀ハ青松院様御縁故有之候也

一同日今般越前坂井港之者一同ヨリ正二位様御寿像御寄附願申上、
為御迎柏谷沙庭・村井収等島雪齊工彫同伴出京、何茂本日御両邸江
出頭御機嫌相伺候

正二位様江

一奉書細

坂井港
一統〇

正四位様江

一御菓子壺折

柏谷沙庭

右献上之

一四月廿二日

田代 弘

今般警視庁出仕二付御家從御差戻、県庁江御達ニハ相成候へ共、
真崎御両方様御用向者は迄之通御頼被成度、依之月々金拾円宛
御送与被成候事

一五月五日左之通被仰付之

白井久人

御家從其儘正二位様臨時御用向是迄之通相心得可申、依而月々
金七円ツ、被下候事

一五月十八日正二位様午前第九時御出門、伊達宗城様御同車、永田
町華族会館江御集会被遊候本日会館へ初而御集会

但シ四月十六日之御廻章ニ

愈御安全珍重ニ候、陳者集会所當時東本願寺借用致居候得共、
御承知之通狭少ニ付、相応之場所百方搜索致候得とも、差当り
屋敷も無之候処、此頃永田町鉾山寮御引払ニも可相成哉ニも伝
承候ニ付、拝借之儀東京府江願出候処、即今引払返付ニも難相
成、仍而拝借之儀ハ難聞届旨大ニ困却致候へ共、尚又工部省江
直談候処、即今引払ニハ難至候得共、不用之場所貸渡之儀ハ聊
無指支、何時ニ而も可引渡旨ニ候間、去ル十三日受取候、孰れ
不遠引払ニ可相成、其上右屋敷一円拝借可願立心得ニ候、此段
為御心得申入候、猶委細之儀ハ拝面申入候、仍如此候也

四月十六日

壬生基修

中山忠能

御名殿
外御三名

一五月廿八日皇后宮御誕辰ニ付御前十時御参朝、御慶賀被仰上候

一五月三十一日東照宮御大祭ニ付両公上野御宮江御参拝

玉串料金貳百正宛

右被供之

一六月一日本日永田町華族会館ニ於テ、役員投票御執行ニ付、両公御参集被為在候

一六月二日浄光院様御忌月ニ付、天徳寺江御参詣被遊候

一六月五日上杉茂憲殿御祖母昌寿院様御儀、兼而御病氣之處御養生無御叶御卒去被成候、右者御簾中様実御叔母御続ニ付、御定式御忌服被為請候、直ニ為御悔御手許使者御指出ニ相成候、尚御両公も翌日御使者御指出相成候、同断ニ付左之通御布達ニ相成候
從四位上杉茂憲殿御祖母寿昌院様御儀、^(昌寿)兼而御病氣之處御養生無御叶、昨五日午後二時御卒去被成候、右者御簾中様ニ於テ御実御叔母御続柄ヲ以、十日・三十日御定式之御忌服被為請候、依之御家從之面々末々迄昨五日ヨ来ル十日迄六日之間、鳴物・高声可致遠慮候事

但シ致懸リ候普請之儀ハ不苦候事

明治七年六月 日

御家扶

一六月廿五日

柏餅壹折

枇杷壹台 ^{献上之}

芝浜松町 中村專助

芝神明前 山中市兵衛

右者芝東照宮宮繕之儀ニ付願之筋有之、真崎御邸江出頭其旨趣陳上候事

一七月十一日正二位様・御簾中様天徳寺江御参詣被遊候、御簾中様当年初而御参詣被遊候ニ付左之通被供、且被下之

御尊靈様方江 金貳百正

本尊江 同貳百正

同三百正 方丈江

同貳百正 役僧江

同百正 不断院江

一七月十三日左之通御書下ニ而、留置候様被仰出之

七月廿三日万里小路宮内大輔ヨ、明廿三日御歌会ニ付被為召候旨申来ル

廿三日午前第十時参内伺天機、且暑中ニ付皇大皇后・皇后宮伺御機嫌候事

第十時後御小座敷江被為召、於天前被加御人数如左

有栖川熾仁親王 万里小路宮内大輔 東久世侍從長

三条西正二位 松平正二位 毛利從二位

御探題

船納涼

雲晴れてくまなき月の桂川すゝしさあかぬ船遊かな

色紙江御認御詠進

御製及詠進之短冊拜見被仰付

御陪食被仰付候人員如左

有栖川熾仁親王

山階晃親王

万里小路宮内大輔

東久世侍從長

杉宮内少輔

齊藤從四位利行

三条西正二位季知

松平正二位慶永

伊達從二位宗城

毛利從三位元徳

細川從四位護久

午後第一時御陪食、畢而御礼申上、猶又宮内省江御礼申上退下

一七月三十一日津輕勝境院様御一周忌ニ付被供之

一金百疋 御花料

(真瓜
桃)

壺籠

一八月十三日阿部様ニ而寛恭院様式十三回忌御相当ニ付、於松平西

福寺奥方様思召を以、無屹度御法事御執行之旨、奥向^ゝ為御知有

之候ニ付、正二位様・正四位様御参詣被遊候

但シ阿部様近来御歴代神祭ニ御改式ニ相成候

一金式百疋 御香奠

一御花 壺筒ツ、被供之

但シ大奥ニ而室田・駒野御代拜被仰付候御簾中様・御前様
御代拜ニ候事

一八月廿二日瑤池院様三回御忌御相当ニ付、昨廿一日^{より}今朝迄於天

徳寺御法事御執行相成候ニ付、本日午前第六時御出門正四位様御

参詣、同七時御出門正二位様御参詣被遊候、昨廿一日夕御寺詰井

上徹・天谷五郎七、本日同断伊藤輔・鱸松江・高橋太一并二両大

奥女中頭罷出候、右ニ付同所に於テ御賄被下置候

一御法事料 米参儀 御定之通

御四方様^{より}
一御香奠

金百疋ツ、

一同断ニ付 正二位様・御簾中様^{より}御添御法事御執行ニ付、左

之通被供之

一御添御法事料 金五百疋

一御香奠 金貳百疋

一九月十九日元津山様ニ而、涼晴院様式十三回御忌御相当ニ付、於

天徳寺御法事御執行有之、左之通被供之

両公^{より}

一御香奠 金貳百疋

一同断ニ付正二位様午前九時御出門御参詣被遊候

一御花壺対 思召を以被供之

一九月廿二日本日於御学問所各国公使御饗応ニ付、正二位様依召御

参朝、御陪食被為蒙仰候
但大礼服御着用

徳川公
慶勝

一同日左之通御連名御出願相成候

臣等叨リニ海岳ノ朝恩ヲ辱シ而空手徒食、毫モ国家ニ報スル所
ナシ、実ニ恐悚ノ至リニ堪ヘス、窺ニ惟ミルニ、欧米諸州今日
文明強大ノ隆盛ヲ致ス所以ハ、皆人民合心協力結社、自国ノ大
利ヲ興セリ、臣等モ亦之ニ効ヒ、曩ニ英国竜動留学蜂須賀茂韶
及至願候鉄道汽車ノ儀相談申越候通り、共同会議シ会社ヲ結立
シ、鐵路汽車ヲ興スコトヲ希望ス、仰願ハクハ臣等ノ素志ヲ遂
シメ、前件興立ノ儀允許ヲ蒙リ候ハ、臣等随テ広ク同志ヲ募
リ、共ニ此挙ニ従事セシメ、皇国隆盛ノ万分ヲ裨補センコトヲ
奉懇願候也、誠恐々々、頓首謹言

明治六年三月廿三日

池田公 章政
細川公 護久
山内公 豊範
亀井公 茲監
池田老公 茂政
毛利公 元徳
池田公 慶徳
伊達老公 宗城
慶永

徳川從一位殿家令去ル十八日正院江呼出、外史ヨリ左之通被相

渡

〔朱書
附札〕

願之趣ハ其方法委詳書載工部
省ヘ可差出事

明治七年九月十日

史官
之印

一十月三日御歌会ニ付依召御参朝、御探題ニ而左之通御詠進

浦秋風

竹芝の浦和の波もしつかにて秋風すゝし月のよなく

一十月四日本日阿部正桓様ニ而、章姫命清心院殿御神号御一周祭御執行相

成候旨為御知有之

正四位様御鮮鯛料 金貳百疋被供之

同断ニ付猶又御同家大奥向御通知相成候ハ、奥方様思召を以、
無屹度於松平西福寺御回向有之旨被仰進候ニ付、正二位様午後御
出門御参詣被遊、奥女中室多為御参相成候

一十月九日正二位様御兼而御願濟ニ而、御方々様御同伴吹上御庭為
御拝見被為入候、田安御簾中様・達孝様・鍋島筆姫様・寿典院様

にも御同伴被遊候

一十月十九日御側仕懷孕ニ付、御家扶香西成ル上申相成候

但シ御誕生之上者、為御養育農家江御預可被遊旨、御内決被仰出候

一十月廿六日岩倉右府公御簾中御逝去之旨為御知ニ付、両公御聯合

ニ而左之通為御悔被進之

一生菓子 壹折

一十月廿九日御表様より左之御届書御指出相成候

来十一月三日天長節ニ付、隠居慶永儀當時麝香間詰ニ付、式部頭殿ハ御布達、宮内省江参賀、於同省御酒饌頂戴仕候ニ付参府

不仕候、此段御届申候也

明治七年十月廿九日

第一大区拾四小区蛸壳町
壹丁目貳番地

正四位松平茂昭内
伊藤 輔

戸長
御中

一十一月一日日本日華族会館ニ於テ幹事改撰投票之处、秋月殿・壬生殿御両名多数御当撰、右ニ付正二位様ニ者御休職ニ被為成、御謝金半額外ニ為御慰勞金貳千疋会館ハ御贈リニ付、左之面々江是迄之為御挨拶被遣ニ相成候

一金參百疋

菱木信之

一金百五拾疋ツ、

安井秀直

高橋義記

一同貳百疋ツ、

一尾通信

松山秀造

落合鋏藏

岡地 茂

服部経夫

仁井田三之助

内野欣次

須藤正安

池田武吉

平久保一清

関 栄四郎

同五拾疋ツ、

新村芳太郎

一同壹朱ツ、

一十一月三日天長節ニ付御参賀、於宮内省御酒饌御頂戴被遊候

一十一月十五日左之通御届書御指出ニ相成候

明治五年七月廿八日御渡之御門鑑御取調之儀御座候ニ付、番号

其他明細相記御届可申旨、本月八日御達之處、則別紙之通二御座候、此段御届申者也

第壹大区拾四小区蛸壳町
壹丁目二番地
十一月十五日
正二位松平慶永

式部寮
御中

但別紙之儀ハ御印鑑雛形詳細認御指出相成候也

十一月十六日本日午前十時正四位様福井表江御発駕被遊候二付、御式所様ハ新橋停車場迄御見送として、御使蟹江太平罷出候
但シ十二月十六日御帰京被遊候

十一月廿四日来ル十二月一日威徳院様五拾回御忌御相当二付、昨廿三日夕より於天徳寺御法事御執行相成、正二位様・御簾中様午前八時より御参詣、御経中御詰被遊候

正二位様
御香奠 金百疋ツ、被供之
御簾中様

一同日有光院様御一周忌御相当二付、昨廿三日夕於天徳寺御法事御執行相成、正二位様・御簾中様御経中御詰被遊候

正二位様
御香奠 金百疋ツ、被供之
御簾中様

但シ正二位様・御簾中様ハ御添御法事御執行二付、左之通被供之

御法事料 金五百疋
御香奠 金貳百疋

一十二月七日正四位様御実母寒月院殿式拾七回忌二付、松平直静様ハ於天徳寺御法事御執行二相成、右二付正四位様ハ御附御法事御執行相成筈之處御留守中二付、正二位様・御式所様ハ思召を以

御香奠 金貳百疋
右被供之

一十二月廿日正二位様ハ左之通御届相成候

明治五年七月廿八日御渡之御門鑑御取調之儀御座候二付、番号其他明細二相記シ御届可申旨本月八日御達二付、則別紙之通二御座候、此段御届申候也

第一大区拾四小区蛸壳町
壹丁目貳番地
明治七年十一月十五日
正二位松平慶永
式部寮
御中